

令和6年度

運 営 に 関 す る 計 画
(最終評価)

大阪市立堀川小学校

令和7年2月

大阪市立堀川小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

現状と課題

本校はこれまでに、大阪市教育振興基本計画の2つの最重要目標のもと、14の取組を中心にして学校運営を進めてきた。目標設定に対し、学校全体で詳細な振り返りや評価を行い、児童や学校の実態に合わせた取組内容へと更新が図られ、常に目標を上回る成果を上げている。例を挙げると、「いろいろな場面であいさつをしている」児童は90%、「認知したいじめの解消率」は100%、「マーチングに取り組むことで得たものがある」と答えた6年生は98%、「学校生活のきまりやルールは大切だと思う」の肯定的回答は97%、また、令和3年度全国学力学習状況調査の平均正答率の対全国比は全国平均を1としたとき、国語1.18算数1.15であり、全国平均を大きく上回っている。

しかしながら、学校を取り巻く状況は近年大きく変化している。新型コロナウイルス感染症の拡大による子どもたちの活動の制限、児童数の急増と校舎建設により過渡期にある校内環境、社会と学校のICT化と情報化社会の中での子どもの生活の変化、等により、本校児童にも多くの課題が浮上している。中でも、不登校・配慮を要する児童の急増、体を動かす時間と場所・機会の確保は最も大きな現在の課題である。さらに、令和4年度からの「大阪市教育振興基本計画」に挙げられる「総合的読解力育成」について、本校としての取り組みを形作っていくこともこれからの課題となる。

令和4年度からの4年間、大阪市の掲げる基本理念の実現をめざし、3つの最重要目標を抛りどころとしながら、堀川小学校としての取り組みを具現化し実践していくために、以下のように目標を定める。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合80%以上を4年間維持する。
- 年度末の校内調査における不登校児童の在籍比率を、各年度とも現在より低い水準で維持する。
- いろいろな場面でのあいさつができる子どもを育てる。児童アンケートの「いろいろな場面であいさつをしている」の設問に対する肯定的回答の割合80%以上を維持する。
- 校内の美化を計画的に推進し美しい学校を作る。児童アンケートの「心をこめて清掃している」の設問に対する肯定的回答の割合が令和7年度末に85%以上になるようにする。
- 児童が、自分自身を振り返り、見通しを持ち意欲を持って成長できるよう取り組みを進める。中学校との連携を年間に4回以上行い不安なく進学できるようにする。また、キャリアパスポートを大人との関わりを持ちながら作成し確実に整理・蓄積する。
- インクルーシブ教育に関する研修を進める。医療的ケアや様々な障がいおよび児童の特性や傾向・合理的配慮についての理解を深め実践する。全教職員が参加する研修会を年間2回行い、その他の研修会についても年間計画に位置付ける。
- 学校の特色の一つとして、伝統あるマーチングを継続し、保護者・地域住民に披露する場を工夫する。児童・保護者への事後アンケート「マーチングに取り組むことで得たものがある」の設問に対する肯定的回答の割合80%以上を4年間維持する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成」について、つきたい力やそれにつながる学習方法への理解を深め、令和7年度までに本校での取り組みの形を確立する。また、読解力向上のため、文意を理解する力を体系的に養う授業モデルを実践する。

- あらゆる教科において、思考力判断力表現力を育成するため言葉による交流活動を進める。小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合35%以上を4年間維持する。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を各年度とも80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全体比を同一母集団において経年的に比較し前年度からの向上を図るほか、市平均を1としたとき1.1以上維持する。
- 体を動かす時間と場所・機会を確保し、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を令和7年度末に70%以上にする。
- 規則正しい生活を実践する指導を行い健康への意識を高める。それにより学校生活や学習に意欲をもって取り組み、友だちと関わり高め合う子どもを育てる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ICTを活用した学習と児童の実態把握の取り組みを定着させる。校内調査「日々の授業の中で学習者端末を活用して学習をしている」の項目について「ほぼ毎日」の回答を90%以上にする。
また、実態把握のためのICT活用について持続可能な方法確立し定着させる。
- 勤務時間の軽減のため、ICT活用により保護者への連絡・調査回答等の業務を効率化し、学校行事の精選・取り組み方の見直しを図る。
- 校内研修計画について、研修の行い方および研修への参加体制について改善を行う。教職員アンケートで「校内研修が充実していたと思うか」の肯定的回答を各年度とも80%以上にする。
- 図書室および校内の読書環境を整える。図書室移設に伴い蔵書整備を計画的に行うほか、校内読書スペースの整備を4年間で完結させる。
- 分かりやすい情報発信・適切な情報の公開に努め、保護者アンケートの「学校は、家庭・地域との連携をとっているか」の肯定的回答を各年度とも70%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
 - ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
 - ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ① いじめアンケートの効果的な時期を鑑みて実施し、実態把握に努める。さらに学級内での児童の言動や様子を観察し、いじめを見逃さない体制を徹底する。学力経年調査の「学校に行くのが楽しいと思いますか」の設問に対する回答で「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」の割合を85%にする。
 - ② 校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。
 - ③ 「学校のきまり」を守って生活できるように取り組む。いろいろな場面でのあいさつができる児童を育てる。児童アンケートの「いろいろな場面であいさつをしている。」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。
 - ④ 校内の美化を計画的に推進し、美しい学校をつくる。児童アンケートの「心をこめて清掃している」の設問に対する肯定的回答の割合が80%以上になるようにする。
 - ⑤ キャリアパスポートの実施により、中学に進学する不安等について把握し、中学校と連携して不安を解消出来る取り組みを進める。さらに、「将来の夢や目標を持っていますか。」という児童アンケートに対して肯定的に回答する児童の割合を80パーセント以上にする。
 - ⑥ 医療的ケアが必要な児童の在籍に伴い、校内の支援体制を整える。また、校内外の研修に積極的に参加し、全職員が共通理解し実践する。研修会や共通理解の場の持ち方を明確化し、児童の特性や傾向・合理的配慮のための支援の方法などについて共有を図る。
 - ⑦ 学校の特色の一つとして、伝統あるマーチングを継続し、保護者・地域住民に披露する場を工夫する。事後アンケートで、児童・保護者とも「マーチングに取り組むことで（子どもたちが）得たものがある」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上になるようにする。また、マーチングを鑑賞する児童の意識が高まるよう工夫することで、本校の伝統が受け継がれていくようにする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度（39.8%）以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全体比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。

- ① 日々の教育活動全般において、多読・速読など、言語活動の充実を図っていく。また、子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む、「総合的読解力育成カリキュラム」を開発し、総合読解力育成のための授業を実施して、思考力・判断力・表現力の育成に取り組む。
- ② 小学校学力経年調査・校内アンケートの「友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広めたりすることができている。」の項目に肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。
- ③ 学年が上がるにつれて、英語に対する苦手意識を持つ児童が増えてきている。授業づくりを工夫し、小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「外国語(英語)の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ④ 小学校学力経年調査の平均正答率70%以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。
- ⑤ 本校児童の体力・運動能力に合った体育科授業と体育的な取り組みを通して運動に親しみ体を動かすことが好きな児童の割合を増やす。小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対しての肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- ⑥ 規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)の保健指導・食育の両面で継続的に指導し、保護者へも啓発していく。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・デジタル教材を活用した朝学習を週3回以上実施する。
- ・学習者用端末を活用した家庭学習を週1回以上実施する。
- ・協働学習支援ツールを用いた学習を年1回以上実施する。
- ・ゆとりの日を週に1回以上設定する。

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。)
- ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。
- ③ ゆとりの日の設定を定期的に行う。学校閉庁日については夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は2日間以上行う。
- ④ 研修計画を立て、教職員アンケートで「校内研修が充実していたと思うか。」の項目について、肯定的に答える職員の割合を80%以上にする。
- ⑤ 図書室の移設にも対応しながら読書環境の整備に努め、蔵書の整備を積極的に行う。児童アンケートの「読書が好き」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。
- ⑥ 学校アンケートの「学校は家庭・地域との連携をとっているか。」の項目について肯定的に答える保護者の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】 【未来を切り拓く学力・体力の向上】 【学びを支える教育環境の充実】

どの取組内容においても概ね指標を上回ることができている。

「ほりかわスタンダード」「学校安心ルール」を中心に安全・安心な教育の推進に努めた。いじめや不登校に対しても生活指導部会を中心に共通理解をして、家庭との連携を密にし、取り組んだ。

「総合的読解力の育成」にも計画的に取り組み、令和8年度からの実施に向けて研修を深めている。学習面や学習環境の整備等は教職員の共通理解を図りながら進めることができた。体力の向上に向けては体育科の授業の年間計画を綿密にたて、狭い運動場を活用し、児童の運動量を増やすように工夫した。

生活面では、児童会活動の取り組みである「あいさつ運動」「たてわり集会」「目を大切にする習慣」など、児童の集団意識や規範意識の育成に取り組んだ。運営に関する計画とは別に SWOT 分析にも取り組み、今年度の児童の様子や職員の取り組みを分析し、来年度に向けての振り返りも充実している。

大阪市立堀川小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>① いじめアンケートの効果的な時期を鑑みて実施し、実態把握に努める。さらに学級内での児童の言動や様子を観察し、いじめを見逃さない体制を徹底する。学力経年調査の「学校に行くのが楽しいと思いますか」の設問に対する回答で「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」の割合を85%にする。</p> <p>② 校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>③ いろいろな場面でのあいさつができる児童を育てる。児童アンケートの「いろいろな場面であいさつをしている。」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。</p> <p>④ 校内の美化を計画的に推進し、美しい学校をつくる。児童アンケートの「心をこめて清掃している」の設問に対する肯定的回答の割合が80%以上になるようにする。</p> <p>⑤ キャリアパスポートの実施により、中学に進学する不安等について把握し、中学校と連携して不安を解消出来る取り組みを進める。校区内の新設「桜和高校」とも連携を図る。さらに、「将来の夢や目標を持っていますか。」という児童アンケートに対して肯定的に回答する児童の割合を80パーセント以上にする。</p> <p>⑥ 医療的ケアが必要な児童の在籍に伴い、校内の支援体制を整える。また、校内外の研修に積極的に参加し、全職員が共通理解し実践する。研修会や共通理解の場の持ち方を明確化し、児童の特性や傾向・合理的配慮のための支援の方法などについて共有を図る。</p> <p>⑦ 学校の特色の一つとして、伝統あるマーチングを継続し、保護者・地域住民に披露する場を工夫する。事後アンケートで、児童・保護者とも「マーチングに取り組むことで（子どもたちが）得たものがある」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上になるようにする。また、マーチングを鑑賞する児童の意識が高まるよう工夫することで、本校の伝統が受け継がれていくようにする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【１．安全・安心な教育環境の実現・いじめへの対応】</p> <p>いじめアンケートを実施し、実態を正確に把握する。また、実施後の教育相談の充実を図るとともに、学級の実態に応じて「心の天気」の入力を定着させる。さらに「心の天気」、「相談機能」により、日々の児童の変容を見逃さないようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>いじめアンケートを毎学期（年３回）実施し、実態に応じた指導を行う。また、「心の天気」、「相談機能」を見て、気になる児童には指導者は丁寧に聞き取りを行い、いじめの対応を１００％にする。</p>	B
<p>取組内容②【１．安全・安心な教育環境の実現・不登校への対応】</p> <p>職員全体で不登校傾向にある児童の共通理解を図る。また、生活指導部会やわかたけ担任会を中心に学校全体で児童の支援ができる体制を整える。気になる児童のことはいいとこみつけに詳細に記入しておき、情報の共有と引継ぎが確実に行われるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>定期的に生活指導部会をもち、児童の実態を共通理解する。令和６年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p>	
<p>取組内容③【１．安全・安心な教育環境の実現・あいさつ】</p> <p>代表委員会を中心にあいさつ運動やポスターなどによる啓発を行い、児童があいさつの意味や重要性を感じられるようにする。また、来校者に対するあいさつの意識を高めていくために、あいさつ運動や生活目標に取り上げながら実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動を学期に１回行う。 ・生活目標に定期的に取り上げる。 	B
<p>取組内容④【１．安全・安心な教育環境の実現・校内美化】</p> <p>清掃道具の整備を行い、心を込めた清掃活動ができるようにすることで、美しい学校をつくる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会が各教室へ行き、正しく清掃できているか確認する。出来ていないところを周知し意識して清掃に取り組めるようにする。 ・清掃活動の呼びかけ「ピカピカデー」を月に１回程度設定し、校内放送で全児童に周知することで、学校をきれいに使うことを意識し、校内を美しく保てるようにする。 ・児童の実態や人数にあった清掃用具を充実させる。 	
<p>取組内容⑤【２．豊かな心の育成・キャリア教育】</p> <p>小中連絡、養護教諭の交流、わかたけ学級の連携、中学校教諭による授業等、積極的に情報を共有する機会を持つ。また、キャリアパスポートの実施により、児童が将来の目標を持てるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年４回（一年生は３回）キャリアパスポートに取り組む。 ・将来の夢を意識できたり、目標をもつことの大切さに気付いたりできるようなコメントをする。 	B
<p>取組内容⑥【２．豊かな心の育成・インクルーシブ教育】</p> <p>医療的ケアが必要な児童の在籍に伴い、校内の支援体制を整える。また、発達障がい等の</p>	

<p>配慮を要する児童、通級児童、いじめ・不登校などで不応が心配される児童の特性や傾向・合理的配慮のための支援の方法について共有し、支援する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアの研修会を年に3回行う。また、通級、特別支援教育全般に関する研修会を実施する。 ・医療的ケアが必要な児童、配慮を要する児童、不登校傾向の児童等の状況を共通理解し、必要な支援をするために、特別支援学級担任、通級担任、通常学級担任とで連携を深める。 	A
<p>取組内容⑦【2. 豊かな心の育成・マーチング】</p> <p>学校の特色の一つとして伝統あるマーチングに取り組み、校内・保護者・地域に披露する場を工夫する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ・練習の進捗状況を校内・保護者・地域に対して学期に1回以上発信し、取り組みの目的を共有する。 ・活動内容・練習方法・披露する場所を工夫する。 ・6年生では、学年全体で取り組むことの意義を常に考えさせ、取り組みを通して、友だち同士が互いに支えあう共生の心と自己肯定感を育むようにする。 ・1～5年生では、マーチングの鑑賞を通して自身でも取り組んでみたいという気持ちにつなげ、伝統を受け継いでいく気持ちを醸成していく。 ・児童アンケートで1から5年生は、「マーチングを見て、自分もやってみたいと思う。」6年生は「マーチングに取り組んで、自分にとって得たものがあると思う。」の肯定的回答の割合を80%以上にする。 	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートは、学期ごとに計画的に実施することができている。また、アンケート実施後、必要に応じた聞き取りを行い、早期対応することができた。 ・いじめにつながるようなトラブルを学級、学年で早期対応し、解決することができた。その結果、大きないじめ事案は起こっていない。また、必要に応じて生活指導部会を通して共通理解することができた。 ・「心の天気」を活用することで、児童の心の状態の把握に努めた。また、「くもり」や「雨」等が続く児童には、個別に声掛けをすることができた。 ・学年行事や不登校、欠席など、さまざまな理由で、入力状況を上昇させることが難しい場合もある。 ・児童の実態、心の状態の把握するためのツールとして、「いじめアンケート」「心の天気」「相談機能」があるが、「心の天気」は入力することが目的になっているところがあるのではない。 ・スクールライフノートの「相談機能」を活用して、相談があった児童については聞き取りを行い、早期対応することができた。 <p>【取組内容2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童理解研修や生活指導部会を通して、児童の様子や対応について共有することができた。 ・必要な支援をするために、特別支援学級担任・管理職・関係諸機関とも連携して対応することができた。 ・今年度は不登校対応についての研修会も行った。 ・「新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる」という指標に対しては、前年度12月時点で0.63%だったが、今年度12月時点で1.24%と減少には至らなかった。対応はしているが、結果に結びついていない児童もいる。 	

【取組内容 3】

- ・学期に 1 回あいさつ運動に取り組み、ほとんどの学年で学校アンケートの肯定的な回答を上げることができた。しかし朝のあいさつ以外では、進んであいさつをする姿勢や意欲がまだ低い児童もいる
- ・児童や教職員も一緒になって取り組むことができた。

【取組内容 4】

- ・各教室や特別教室、トイレなどの清掃チェックを環境委員会で計画通り行った。また、チェックシートを作成し、それぞれの清掃担当に周知することで意識を高めることができた。
- ・「ピカピカデー」を月 1 回設定し、校内放送で周知することで全体的に意識して清掃活動に取り組むことができた。
- ・移動教室などに必要な清掃道具を各教室の管理にすることで過不足なく清掃道具を充実させることができた。

【取組内容 5】

- ・指標通りにキャリアパスポートに取り組むことができた。また、教員のコメントから、児童が目標の大切さに気づけるようにした。
- ・学校アンケートの「将来の夢や目標を持っている」の肯定的回答の割合は 93%だったため、将来の夢や目標を持っている児童は多くいる。
- ・キャリアパスポートには意欲的に取り組んでいるが、その取り組みから将来の夢を意識するまでには至っていない児童が多くいた。そのため、キャリアパスポートの取り組みが将来の夢を考えることへとつながっていないように感じる。

【取組内容 6】

- ・医療的ケア研修を年に 3 回行い、教職員に医療的ケア児の配慮事項や緊急対応方法を共有することができた。
- ・通級や特別支援学級児童について研修会を行い、児童の特性や対応の方法を共通理解することができた。また、学級での居場所づくりにつとめ、学年打ち合わせ等で、支援を要する児童への配慮事項を検討した。
- ・「通級だより」で、通級で学習している内容などを教職員に伝達することができた。
- ・配慮を要する児童、不登校傾向の児童について、通常学級担任と情報共有を行い、児童が登校できるための支援を行った。

【取組内容 7】

- ・学校だよりを通して、テーマや選曲の意図・練習の進捗状況等をその都度発信することができた。
- ・予め時間割に時間と場所が設定されたことで、練習が進めやすかった。
- ・曲数、入場方法、前学年での予習、フォーメーション等、外部講師の協力も得て、児童数増加と負担軽減の工夫を進めることができた。
- ・事後アンケートでは、すべての学年で肯定的回答が指標となる 80%を上回っていることから、目的は達成できたと考える。
- ・リハーサルを鑑賞する機会を持つことで、1～5 年生は自分たちも取り組んでみたいという気持ちを持つことができた。6 年生は下級生に披露する機会を得、さらに下級生からメッセージをもらう事で、誇りをもって活動に取り組む決意を新たにすることができた。
- ・メジャーバトンの引継ぎ式を実施することで、特に 5 年生において、改めて伝統を引き継ぐ意識を強くすることができたのではないかと考える。
- ・6 年時での負担軽減のため、4・5 年生で 1 曲ずつ定番曲の練習を始めているが、普段から慣れ親しんでいる曲を持つことで、意欲的に取り組もうとする児童が多い。

- ・ 高校生のマーチングバンドの演奏を鑑賞する機会を持ったことで、さらに取り組みへの意欲が高まった。

次年度への改善点

【取組内容 1】

- ・ 各学年の児童の実態を生活指導部会で共有することができているが、学年をまたいだ問題については、早期対応が必要な時もある。問題に応じて職朝で情報を共有したり、緊急の生活指導部会を開いたりすることも今後必要である。
- ・ 「心の天気」の入力状況は上昇しているが、100%には至っていない。児童の心の状態を把握するためにも、継続的に入力を促す声掛けを行っていく。
- ・ いじめを未然に防ぐため、「心の天気」以外でも日ごろから児童の様子を注意深く見ておき、児童の実態把握に努めることが大切である。

【取組内容 2】

- ・ 指標の「不登校の割合を減らす」より、不登校児へのより良い対応や対策を検討していく必要性のほうが重要ではないかと感じる。
- ・ いいところみつけへの記入を年度末ではなく、すぐに詳細に入力したほうがよい。
- ・ 不登校傾向にある児童の対応について、窓口をはっきりと位置づけ、るるルームの利用方法や外の機関との連携を相談できるようにする。
- ・ 不登校傾向の児童の対応が特別支援学級担任に偏っていたため、来年度の配置について検討する必要がある。
- ・ 定期的に不登校傾向の児童（別室登校している児童）について共通理解する場を設定する。

【取組内容 3】

- ・ 来年度も引き続き取り組みを行う。
- ・ 様々なあいさつをする場面で、意識できる取り組みを取り入れて、それぞれの学期で比較できるようにするとよい。
- ・ 校内でのあいさつを強化し、その後来校者などに対してのあいさつもできるようにしていく。

【取組内容 4】

- ・ チェックシートを作成しても周知を各担任に任せてしまっているので実際の反応や困っていることの解決など活動に深まりを持たせることができていなかった。なので、来年度はもっとつながりの場を持てるようにしたい。
- ・ 「ピカピカデー」を意識して清掃に取り組むことができたが、表彰などもっと意欲的に清掃に参加できるような仕掛けを考える必要がある。

【取組内容 5】

- ・ 遠い将来の夢を持っている児童と持っていない児童がいるため、遠い将来がイメージしにくい児童は近い将来（今年の目標など）で考えさせる。
- ・ キャリアパスポートを書くことで、次の目標をもつことはできるが、将来の夢を意識するまでには至っていないため、キャリアパスポート以外でのキャリア教育が必要になる。そのため、社会見学後や外部講師に来ていただいた後など、働いている人の姿を見た後の振り返りで仕事について考える時間を設けるようにしたい。
- ・ 「学校アンケートの「将来の夢や目標を持っている」の項目の肯定的な回答の割合を 85%以上にする。」などという文言を指標に入れる。

【取組内容 6】

- ・ 次年度も医療的ケアの研修会を行い、新転任の教職員も含め緊急対応の方法を共有する。

- ・配慮を要する児童がともに学校で生活している上で、安全面で注意すべきこと（廊下は走らず歩く等）を児童が理解できるように指導方法を考えていく。
- ・学年打ち合わせの日の設定を行う。
- ・不登校傾向の児童について、現在のるるルームでの支援を特別支援学級担当だけでなく、他の教職員の協力を得ることができるのか検討していく。

【取組内容 7】

- ・R8 年度の取り組みに向けて、『伝統を継承しつつ、児童数増加に対応できる方法』について、年度内に合意形成のための話し合いの場を持つ（内容・練習の時間と場所・発表の形と時期…）。
- ・マチングの活動に対して積極的に取り組むことが難しい児童への支援の工夫。

大阪市立堀川小学校令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度（39.8%）以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全体比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。 <p>① 日々の教育活動全般において、多読・速読など、言語活動の充実を図っていく。また、子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む、「総合的読解力育成カリキュラム」を開発し、総合読解力育成のための授業を実施して、思考力・判断力・表現力の育成に取り組む。</p> <p>② 小学校学力経年調査・校内アンケートの「友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広めたりすることができている。」の項目に肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。</p> <p>③ 学年が上がるにつれて、英語に対する苦手意識を持つ児童が増えてきている。授業づくりを工夫し、小学校学力経年調査・校内児童アンケートにおける「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>④ 小学校学力経年調査の平均正答率70%以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。</p> <p>⑤ 本校児童の体力・運動能力に合った体育科授業と体育的な取り組みを通して運動に親しみ体を動かすことが好きな児童の割合を増やす。小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対しての肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。</p> <p>⑥ 規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）の保健指導・食育の両面で継続的に指導し、保護者へも啓発していく。病気予防に努めたという児童の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【４．誰一人取り残さない学力の向上・言語活動・理数教育の充実】</p> <p>学力の向上に向けた言語活動の充実として、国語科「情報の扱い方」「説明・報告」領域から年間１単元を重点単元に設定して、言語能力（総合的読解力）を育成する。来年度本格実施の総合的読解力育成に向けて、成果物を作成し、学んだことを表現する活動を行う。</p> <p>理数教育の充実のため、ハンズオンを大切にした教育を推進する。算数科では実物を活用した学び、理科では実験・観察を取り入れた学びを充実させる。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科「情報の扱い方」「説明・報告」領域から年間１単元を重点単元に設定する。 ・算数科では、実物を活用した学びを年間１単元設定する。 ・理科では、実験・観察を取り入れた学びを年間１単元設定する。 	
<p>取組内容②【４．誰一人取り残さない学力の向上・主体的・対話的で深い学び】</p> <p>教科・領域の指導において、子どもにどのように力をつけさせたいのかを明確にした指導計画・実践を目指し、全学年で授業研究に取り組む。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業研究（一人一授業含む）において、“単元を通して、何を目的としてどのような内容を交流するか”という視点をもち、授業を実施する。また、授業研究（授業）後に、参観者のコメントシートをやり取りすることで、授業力を高める。 ・これまでの体育科の研究を活かし、授業前に、学年で、子どもたちの視点に基づいた授業展開を考えるようにする。また、年間指導計画をもとに、“（教師が）教えること”と“（子どもたちが）気づくこと”を明確にした授業を学年一人以上行う。 ・児童アンケートにおける「話し合い活動」に対する肯定的な回答（児童）を昨年度よりも１ポイント増加させる。 	
<p>取組内容③【４．誰一人取り残さない学力の向上・英語教育の強化】</p> <p>児童が英語活動に対して苦手意識を持たず楽しく参加できるように、工夫した活動を取り入れた授業づくりに取り組む。</p>	A
<p>指標</p> <p>外国語の授業づくりをメンター研修を中心に行い、児童が授業の中で楽しみながら学べる環境を作る。</p>	
<p>取組内容④【４．誰一人取り残さない学力の向上・全市共通テストの実施と分析・活用】</p> <p>小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率を向上させるための取り組みを実施する。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の学力経年調査の結果を踏まえ、平均正答率が低かった単元を把握し、重点的に指導する。また、それらの単元を学校全体で共有することで、児童がつまづきがちなポイントを踏まえた系統的な指導に生かす。 	
<p>取組内容⑤【５．健やかな体の育成・体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <p>本校児童の体力・運動能力に合った体育的な取り組みを通して、体を動かすことが楽しいと感じる児童を育てる。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育科の授業において学習の最後に振り返りを行い、できたことや気づいたことを確認 	

<p>できる機会をつくる。</p> <p>・運動委員会を中心に学期に1回程度、体育的な取り組みをする。</p>	
<p>取組内容⑥【5. 健やかな体の育成・体力・健康教育・食育の推進】</p> <p>目を大切にする生活習慣を身につける。</p>	
<p>指標</p> <p>保健指導、栄養指導、学級指導、健康委員会の活動（テレビ集会・放送・ポスターなど）など様々な機会に「目を大切にする生活習慣」（明るさ、姿勢、休養、規則正しい生活、栄養バランスの良い食事、外遊びや運動など）を周知させ、意識させるようにする。アンケートでの肯定的回答の割合を80%以上にする。</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容1】</p> <p>・国語科では、単元に応じたパフォーマンス課題を計画的に設定し、全学年で取り組むことができた。学んだことを表現する学習のパターンを、タブレット端末を活用した報告文やポスターなど学年や単元に合わせて工夫することができた。理数教育充実に向けて、算数科では多くの単元で実物を用いて指導し、児童が実物に触れてハンズオンで学習することができた。理科でも同様に、実験・観察の学習を多く取り入れることを大切に学習することができた。</p> <p>【取組内容2】</p> <p>・研究授業を通して、学校が一丸となってポートフォリオや参観者のコメントシート、一人一授業に全員取り組んだため、より良い授業について検討を重ねることができた。</p> <p>【取組内容3】</p> <p>・全学年での「英語の授業は楽しい」の肯定的回答は90%で、高学年でも90%を超えることができた。楽しく参加できる授業や環境づくりができたといえる。メンター研修や英語短時間学習の研修を実施し、指導に活かすことができた。</p> <p>【取組内容4】</p> <p>・昨年度の経年調査の結果を分析し、正答率の低かった単元を重点単元に設定した。その課題を学校全体で共有し、共通理解したうえで、補習・復習するなどして重点的に指導を行うことができた。また、各学年で苦手な単元を共有し、補習・復習するなどの対策を行った。</p> <p>【取組内容5】</p> <p>・体育科の学習では、学習の最後に振り返りの時間を設定したり、ワークシートを活用したりしながらできたことや気づいたことを確認することができた。また、学期に一回体育的な取り組みを行い、運動に親しむ機会を作ることができた。（1学期ボール週間・2学期なわとび週間・3学期かけ足週間）</p> <p>【取組内容6】</p> <p>・保健指導、栄養指導、学級指導、健康委員会による学校保健委員会をはじめとする様々な活動などを通して、「目を大切にする生活習慣」を意識して過ごそうとする態度が身に付いてきた。アンケートでの肯定的回答の割合は82%となった。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【取組内容1】</p> <p>・必要な物品を用意するための予算を確保したり過不足を確認したりして今後も実物を用いた学習を大切にする。さらに、実物を活用した学びを年度当初に学年で確認し、確実に実施できるようにする。また、来年度から本格実施する総合的読解力育成カリキュラムを計画的に実施する。系統立てるためにも、成果物などを引き継ぎや共有できるようにする。今後も年間計画に基づいて、</p>	

学力向上に向けて活動に取り組む。

【取組内容 2】

- ・体育科の一人一授業は全学年で実施することができていたが、「教えること」と「気づかせること」について全員が共有できるものがあるようにする。また、研究が終わってから転勤で来られた先生などには伝わっていないため、引き継いでいく策を講じていく必要がある。

【取組内容 3】

- ・次年度も外国語活動、英語、短時間学習それぞれにおける活動内容に関する研修を行い、外国語の指導における、言語活動を意識した授業づくりを行う。モジュールタイムの取り組みを引き続き実施していく。そのための時間の確保や指導方法など、英語部を中心に検討していく。

【取組内容 4】

- ・今年度の経年調査の結果を分析し、次年度の指導に生かす。今後も各学年で児童が苦手な単元について共有し、重点的な指導を継続していく。今後も学校全体で共有し、重点的・系統的な指導を継続していく。

【取組内容 5】

- ・各学年で活用したワークシートなどの資料をまとめ、体育科の学習内容を充実させるとともに、系統立てた指導ができるようにしていく。

体育的な取り組みに関しては、休み時間や外遊びとの兼ね合いも考慮し、今年度の取り組みを振り返りながら次年度の計画を立てていく。

【取組内容 6】

- ・高学年になるほど、意識して過ごそうとしている児童の割合が減るので、継続的な児童への声かけや家庭への啓発を行う。家庭への啓発には、一斉メールよりも学校ホームページの方が効果が高いと思われるので、改善したい。

大阪市立堀川小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材を活用した朝学習を週3回以上実施する。 ・学習者用端末を活用した家庭学習を週1回以上実施する。 ・協働学習支援ツールを用いた学習を年1回以上実施する。 ・ゆとりの日を週に1回以上設定する。 <p>① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。)</p> <p>② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。</p> <p>③ ゆとりの日の設定を定期的に行う。学校閉庁日については夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は2日間以上行う。</p> <p>④ 研修計画を立て、令和6年度末の教職員のアンケートで「校内研修が充実していたと思うか。」の項目について、肯定的に答える職員の割合を80%以上にする。</p> <p>⑤ 読書環境の整備に努め、蔵書の整備を積極的に行う。児童アンケートの「読書が好き」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。</p> <p>⑥ 学校アンケートの「学校は家庭・地域との連携をとっているか。」の項目について肯定的に答える保護者の割合を70%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6.教育DXの推進・ICTを活用した教育の推進】</p> <p>スマートスクール次世代学校支援事業で導入されている心の天気やいじめアンケートで児童の心の状態や日々の状況を可視化し、児童の理解を深めることができるように学習者端末を活用する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階や学習場面等に合わせて、学習者用端末やデジタル教材を有効的に活用する。 ・ICT 機器を活用したプレゼンテーションスキルの向上のために、各教科の中で学習者用端末等を使ったプレゼンテーションをする機会を設定する。 ・スマートスクール次世代学校支援事業で導入されている心の天気やいじめアンケートで児童の心の状態や日々の状況を可視化できるように、学習者用端末を活用する。 	B
<p>取組内容②【7.人材の確保・育成としなやかな組織づくり・働き方改革の推進】</p> <p>教員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保することができる環境づくりに努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>「ゆとりの日」を定期的に設定し、設定した日には退勤時間を遵守する。ICTを活用して保</p>	B

護者へのアンケートや児童アンケートを行い、実務の効率化をはかる。		
取組内容③【7. 人材の確保・育成としなやかな組織づくり・教員の資質向上・人材の確保】 実践的指導力の向上、知識・技能を習得するために積極的に研修に参加する。また、研修等に参加しやすい環境を整える。	指標 校内や個人で年間計画をたて、それに基づき研修に努める。	A
取組内容④【8. 生涯学習の支援・学校図書館の活性化】 図書室の整備をはじめ、学級文庫の充実、読書スペースの整備、市立図書館の団体利用などを進め、読書環境の整備に努める。		
指標 読書環境の整備を定期的に点検する。 学級文庫の本を学期ごとに交換する。 読書ボランティアの活躍の場と交流の場を設定する。 地域やPTA と連携し、図書スペースを設置することで、読書活動の活性化を図る。		B
取組内容⑤【9. 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進・地域学校協議活動の推進】 学校だよりやホームページを通して積極的に情報発信を行う。学年でも定期的に児童の様子をホームページに掲載する機会を持つ。また、登下校の見守り活動、読書活動支援、地域との交流行事など、学校・地域・家庭の連携による取り組みを推進していく。	指標 「わたしたちのほりかわ」を活用し、地域や学校について学ぶ機会を設定する。ホームページに月ごとの発信回数を決め、計画的に児童の様子を知らせる。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【取組内容 1】 ・各学年ほぼすべての教科でデジタル教科書の動画や音声読み上げを活用することができた。 ・学年に応じて、ナビマや九九、キーボードレッスン、カメラ、PowerPoint、Word を活用することができた。 ・連絡帳を学びのポータルで配信したり、一人一台端末を持って帰ったりすることで心の天気の入力率が上がったことで、児童の心の状態を可視化できるようになった。		
【取組内容 2】 ・ゆとりの日を定期的に設定し、退勤時間を早める取り組みを行ったり、ICT を活用して保護者アンケートや児童アンケートを行い、実務の効率化を図ったりした。		
【取組内容 3】 ・校内の研究授業では、児童の下校時刻を早めるなどして参加体制を整えた。授業後の振り返りやポートフォリオにより自分事として参加することができた。一人一授業では、丁寧に参加体制を整え、ほかの先生の授業を見る・見せる機会ができた。メンター研修も活発に行い、若手教員の学びの場となった。		
【取組内容 4】 ・学級文庫の本を入れ替えたり、市立図書館の団体貸し出しを利用したり、読書活動の活性化を図った。図書室が遠い学年では、ブックトラックで貸し出しを行い廊下に設置したことで読書量が増え、たくさんの本に親しむことができた。また、学校アンケート「読書がすきだ」の肯定的回答の割合が全学年で 80%を超えた。		

【取組内容 5】

- ・学校のホームページや学校だよりでは、日々の学習の様子について、タイムリーに発信することができた。また、くすくす・お話会等の読書活動、ふれあい清掃・区民カーニバル・堀川フェスティバル・ドッジボール大会等、さまざまな場面で学校・地域・家庭の連携を意識した取り組みを行うことができた。

次年度への改善点**【取組内容 1】**

- ・どうしても担任の先生のスキルによって、学習への取り入れ方が変わってくるので、新しいものやプログラミングの研修などを実施すると、全教職員がより学習に取り入れやすいのではないかと思います。
- ・実際に学習計画の中にプレゼンテーションが取り入れられた学習があまりないので、どこで取り入れれば良いのかなどの案があればよかったですと思います。

【取組内容 2】

- ・ゆとりの日については、今後その退勤時間を遵守していく。また遵守できるように、行事のさらなる精選、業務量を分担していく必要があり、校務分掌の割振りに工夫が必要である。

(例) 体育のところで、体育主任がすべてを担うのではなく、①体力テスト ②水泳 ③スポーツフェスティバル ④かけあし週間 ⑤堀川マラソン ⑥環境整備 など行事を分担して担当を決めて行う。

また、ICT を活用したアンケート等は特定の先生が行っているため、誰でもできるような体制、共有を行う。

【取組内容 3】

- ・研修内容・時期についてアンケートを取り、教職員のニーズに合ったものを年間（知・徳・体）でバランスよく計画する。

【取組内容 4】

- ・1年生の図書スペースが設置されたことで、近くの学級は、休み時間等に活用する姿が見られるようになったが、そうでない学級では全く活用されていないため、ブックトラック等を利用して図書スペースを広げていく必要がある。また、ブックトラックを利用する際は、学年でたくさんの量の貸し出しを行い運ぶのは大変な為、図書館司書や SSS さんの協力を仰ぎたい。学級文庫の交換日については各学年に任せるのではなく、行事予定に入れる。

【取組内容 5】

- ・「わたしたちのほりかわ」の活用について、学年ごとに活用できそうな単元を確認、次年度へ引き継ぐ。